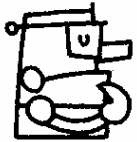


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

たい積岩の中に化石が多いのは、なぜなの



たい積岩は、水中で積み重なってできた^{ちそう}地層が岩石に変化したもので、地層の中では^{ほね}骨などが化石で残りやすいからさ。

化石が入っているのは、たい積岩だけ

岩石は、火山の活動によってできる火成岩と、水のはたらきによってできるたい積岩のグループに分けられます。火山の地下には、高温でどろどろにとけたマグマというものがあり、ふん火でこれが地上に出て冷えて固まると、岩石になります。これが火成岩とよばれるグループですが、この中には、化石はありません。

たい積岩は、大きな岩石がこわれた石やどしゃなどが、水のはたらきで運ばれて、長い間に積み重なって地層になり、地層がおし固められて岩石になったものです。この地層の中にはさまれた木の葉や骨などが、化石になることがあり、化石が入っている岩石は、たい積岩だけなのです。

空気中や土中では、ほとんどの物がくさってなくなってしまう。

木の葉や動物のしがいなどは、そのまま置いておくと、空気中でも、土中でも、くさってなくなってしまう。空気中にも、土中にも、たくさんの生き物やバクテリアがいて、植物や動物の体を分解してしまうからです。このとき、空気中の酸素も分解の手助けをしています。

化石になって残るのは、木の葉や死がいが水底などにしずみ、その上に、ねん土や砂^{すな}などが積もったりしたときなどです。水やどしゃで空気がさえぎられ、バクテリアなども活動できないため、かたい葉の筋や骨^{すじ}などが分解されずに残ったまま、うずもれていきます。そして、長い間に、積み重なった地層の重さでおしつけられ、葉や骨の成分が岩の成分に変わって行って、化石ができるのです。

化石が見つかったら、
その石はたい積岩だね。

